

公衆衛生学総論	1
<b>第1章 獣医公衆衛生学の考え方と概要</b>	3
1. 公衆衛生学の考え方と概要 (杉山 誠)	3
1) 公衆衛生の目的 (図 1-1)	3
2) One Health (図 1-3)	4
3) 公衆衛生活動の進め方 (図 1-4)	4
2. 疾病の発生と予防活動 (杉山 誠)	5
1) 疾病の発生要因	5
2) 疾病の予防活動 (図 1-2, 表 1-1)	6
3. 国民衛生の指標 (上野俊治)	6
1) 人口統計	7
2) 疾病統計	26
<b>第2章 獣医公衆衛生学の役割</b>	28
1. 食品衛生 (壁谷英則)	28
1) Farm to Table	28
2) 食品衛生における獣医師の役割	29
2. 人獣共通感染症 (丸山総一)	29
1) 感染症分野における獣医師の役割	29
3. 環境衛生 (佐藤 至)	30
1) 環境衛生分野における獣医師の役割	30
4. 動物福祉および動物愛護	31
1) 動物福祉と動物愛護 (菊水健史)	31
2) 人と動物の共生の歴史 (菊水健史)	32
3) 人と動物の共生に関連する問題と獣医師の役割 (加隈良枝)	34
4) 人と動物の共生を目指した公衆衛生行政の取組み (加隈良枝)	39
<b>第3章 リスクとリスクアナリシス</b> (蒔田浩平)	43
1. リスクアナリシス	43
1) リスクアナリシスの始まり	43
2) リスクアナリシスの方法	44
2. リスクアナリシスと食品衛生行政	46
<b>第4章 公衆衛生行政</b> (加地祥文)	48
1. 行政および行政法の存在理由	48
1) WHO 憲章	48
2) 日本国憲法第 25 条	48
3) わが国における公衆衛生分野の法律の変遷	50
4) 獣医公衆衛生行政の法体系	51
2. 食品衛生分野の獣医公衆衛生関連法規	52
1) 食品安全基本法	52
2) 食品安全のための法律 (食品衛生法, と畜場法, 食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律)	53
3. 感染症対策分野の獣医公衆衛生関連法規	58
1) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律	58

2) 狂犬病予防法	62
4. その他の獣医公衆衛生関連法規	62
1) 環境基本法	62
2) 動物の愛護及び管理に関する法律	63
3) 化製場等に関する法律	63
4) 興行場法, 公衆浴場法, 旅館業法, 理容師法, 美容師法, クリーニング業法, 墓地, 埋葬等に関する法律	64
5) 水質汚濁防止法, 廃棄物の処理及び清掃に関する法律	66
5. 公衆衛生行政	66
1) 公衆衛生行政を担う国の組織	66
2) 公衆衛生行政を担う地方公共団体	68

## 食品衛生学 71

### 第1章 食品衛生の概要 73

1. 食品衛生の定義 (三宅眞実)	73
1) 食品衛生とは - 食品衛生の定義と目的 -	73
2) 食品衛生の歴史	74
3) 食品衛生の対象と範囲	76
4) 食糧生産の現状と課題	77
2. 食品衛生に関わる法規と行政 (石原加奈子・寺嶋 淳)	77
1) 食品衛生に関わる行政組織と役割	77
2) 食品衛生に関わる国際組織と役割	80
3) 食品衛生に関わる主な法規	81
3. 飲食に起因する健康被害	82
1) 食品そのものによって起こる危害 (白井 優)	82
2) 食品が媒体となって起こる健康障害 (白井 優)	83
3) 身体の反応によって起こる健康障害 (平山和宏)	84
4) 食中毒の発生状況と行政対応 (森田幸雄)	86

### 第2章 細菌性食中毒 94

1. 細菌性食中毒の発症機序による分類 (川本恵子・佐藤祐介)	94
1) 感染型食中毒	94
2) 食品内毒素型食中毒	94
2. 主な細菌性食中毒	95
1) サルモネラ属菌 (中馬猛久)	95
2) 病原性大腸菌 (福田 昭)	96
3) 腸管出血性大腸菌 (福田 昭)	98
4) 腸炎ビブリオ (柏本孝茂)	99
5) リステリア菌 (吉川悠子)	100
6) カンピロバクター・ジェジュニ/コリ (三澤尚明)	101
7) ウェルシュ菌 (安木真世)	103
8) ブドウ球菌 (胡 東良)	104
9) セレウス菌 (安木真世)	105
10) ボツリヌス菌 (三宅眞実)	107
11) 乳児ボツリヌス症 (三宅眞実)	109
12) ナグビブリオ (柏本孝茂)	110
13) エルシニア・エンテロコリチカ (林谷秀樹)	110
14) 赤痢菌 (吉川悠子)	111

15) コレラ菌	(山崎浩平)	112
16) チフス菌	(川本恵子・佐藤祐介)	113
17) パラチフスA菌	(川本恵子・佐藤祐介)	114
18) その他の細菌	(岡谷友三アレシャンドレ)	114
<b>第3章 ウイルス性食中毒</b>		117
1. 主なウイルス性食中毒		117
1) ノロウイルス	(高野貴士)	117
2) A型肝炎ウイルス	(山田健太郎)	118
3) E型肝炎ウイルス	(山田健太郎)	120
4) その他のウイルス	(高野貴士)	121
<b>第4章 寄生虫性・原虫性食中毒</b>		123
1. 野菜と寄生虫		123
1) 回 虫	(吉田彩子)	123
2) 鞭 虫	(吉田彩子)	124
3) 鉤 虫	(入江隆夫)	124
4) 肝 蛭	(入江隆夫)	125
2. 水と原虫	(黒木俊郎)	126
1) クリプトスポリジウム		126
2) サイクロスポーラ		127
3) 赤痢アメーバ		128
3. 淡水魚と寄生虫		128
1) 顎口虫類	(林 慶)	128
2) 横川吸虫	(林 慶)	129
3) 日本海裂頭条虫	(柳田哲矢)	130
4. 海産魚と寄生虫		131
1) アニサキス	(山崎朗子)	131
2) クドア・セプテンプンクタータ (和名：ナナホシクドア)	(大西貴弘)	132
5. 淡水カニ類と寄生虫	(林 慶)	133
1) ウェステルマン肺吸虫		133
6. 豚肉と寄生虫		134
1) トリヒナ (旋毛虫)	(平 健介)	134
2) 有鉤条虫	(柳田哲矢)	135
3) トキソプラズマ	(正谷達膳)	136
7. 牛肉と寄生虫	(柳田哲矢)	137
1) 無鉤条虫		137
8. 馬肉と寄生虫	(山崎朗子)	138
1) サルコシスチス・フェイヤー		138
9. その他の食品媒介寄生虫	(浅川満彦)	139
1) マンソン裂頭条虫		139
2) 広東住血線虫		140
<b>第5章 自然毒</b>		141
1. 動物性自然毒	(豊福 肇)	141
1) マリントキシン		141
2) 毒化機構		141
3) フ グ 毒		141
4) シガテラ毒		142

5) イシナギの肝臓 (高濃度ビタミン A)	143
6) 深海魚 (ワックスエステル)	143
7) 麻痺性貝毒	143
8) 下痢性貝毒	144
9) 神経性貝毒	145
10) 記憶喪失性貝毒	145
11) テトラミン	146
12) その他の貝毒 (アザスピロ酸)	146
2. 植物性自然毒	(落合由嗣) 147
1) キノコ毒	147
2) 植物毒	147
3. 自然毒食中毒の予防	(落合由嗣) 148
<b>第6章 有害物質による食品汚染と健康障害</b>	150
1. 環境由来汚染物質	(上野俊治) 151
2. 腐敗アミン	(上野俊治) 151
3. カビ毒 (マイコトキシン)	(上野俊治) 152
1) アスペルギルス属真菌の産生するマイコトキシン	152
2) ペニシリウム属真菌の産生するマイコトキシン	153
3) フザリウム属真菌の産生するマイコトキシン	153
4) 麦角アルカロイド	153
4. 残留農薬	(上野俊治) 154
1) 有機リン剤	154
2) 有機塩素剤	154
3) カーバメイト剤	154
4) ポストハーベスト農薬	154
5. 残留動物用医薬品	(上野俊治) 155
6. 放射性物質	(佐藤 至) 156
7. 重金属類およびヒ素	(佐藤 至) 156
1) 水 銀	156
2) 鉛	157
3) カドミウム	157
4) 銅	157
5) ヒ 素	157
8. 誘起性有害物	(上野俊治) 157
1) 油脂の過酸化物	157
2) N-ニトロソ化合物 (ニトロソアミン類等)	158
3) 熱分解生成物 (ヘテロサイクリックアミン, 多環芳香族炭化水素)	159
4) アクリルアミド	159
9. その他の食品汚染化学物質	(上野俊治) 159
1) 機器由来の有害物質	159
2) 誤用化学物質	160
3) 指定外添加物	160
4) 異 物	160
5) 容器等の成分	160
6) 洗 剤	160
10. 食品中に残留する農薬等の規制	(上野俊治) 160

<b>第7章 食品添加物</b> .....	162
1. 食品添加物の使用目的と法的規制..... (三澤尚明) .....	162
1) 食品添加物の定義.....	162
2) 食品添加物の使用目的.....	162
3) 食品添加物の分類 (2023年9月27日現在) .....	162
4) 食品添加物の指定.....	162
5) 食品添加物公定書.....	163
6) 食品添加物の表示.....	163
7) 食品添加物の規格基準.....	164
2. 食品添加物の安全性評価..... (壁谷英則) .....	164
1) 毒性試験.....	164
2) 無毒性量の算出.....	165
3) 一日摂取許容量 (ADI) の算出 .....	165
4) 食品添加物の使用基準の設定.....	166
3. 食品添加物に関する規制..... (壁谷英則) .....	166
<b>第8章 生体反応により生じる食品の有害性</b> ..... (手島玲子) .....	167
1. 食物アレルギー.....	167
1) 定義と特徴.....	167
2) 症状と病型.....	167
3) 食物アレルギー感作経路による分類.....	168
4) 食物アレルゲン.....	168
5) アレルギー物質を含む食品の表示.....	169
2. 腸内細菌との相互作用による食品の有害性.....	169
1) 腸内細菌叢と健康.....	169
<b>第9章 食品の腐敗・変敗とその防止</b> ..... (作道章一) .....	171
1. 食品の品質劣化とその影響.....	171
1) 変質, 腐敗, 変敗, 酸敗.....	171
2) 食品の腐敗の原因.....	171
3) 腐敗や食品の鮮度判定.....	172
4) 油脂の変敗 (酸敗) .....	173
5) 酸敗の指標.....	174
2. 食品ロスと食品の変質防止.....	174
1) 食品ロスと食品の変質.....	174
2) 食品の変質防止と食品保存法.....	175
<b>第10章 食品の規格と表示</b> .....	178
1. 食品の規格基準..... (山崎栄樹) .....	178
1) 規格基準の目的.....	178
2) 規格基準の概要.....	178
2. 衛生指標細菌..... (山崎栄樹) .....	179
1) 主な衛生指標細菌.....	179
3. 食品の表示..... (森田幸雄) .....	180
1) 表示の法的位置づけ.....	180
2) 消費者向けに販売する場合.....	180
<b>第11章 食品衛生管理</b> .....	183
1. 生産から消費までの衛生管理.....	183
2. 一般衛生管理 (GHP).....	183

3. HACCP .....	184
4. 世界食品安全イニシアチブ (GFSI) .....	187
<b>第 12 章 乳および乳製品の衛生</b> .....	188
1. 乳および乳製品の衛生管理の詳細 .....	188
1) 乳の成分と性状 .....	(胡 東良) …188
2) 乳および乳製品の微生物汚染 .....	(胡 東良) …190
3) 乳および乳製品の理化学的物質の汚染 .....	(胡 東良) …191
4) 乳および乳製品の殺菌 .....	(胡 東良) …192
5) 乳および乳製品の衛生管理 .....	(柏本孝茂) …192
6) 乳および乳製品の成分規格 .....	(柏本孝茂) …193
7) 乳および乳製品の検査法 .....	(柏本孝茂) …195
<b>第 13 章 食肉および食鳥肉の衛生</b> .....	198
1. 食肉の衛生 .....	(上野俊治・森田幸雄) …198
1) 食肉とその加工品の衛生上の特徴 .....	199
2) 家畜生産における衛生管理 .....	200
3) と畜場の衛生と HACCP .....	201
2. 食鳥肉の衛生 .....	(岡田彩加) …210
1) 鳥および食鳥肉による人の疾病 .....	210
2) 生産における衛生管理 .....	210
3) 食鳥処理工程と衛生管理 .....	210
4) 食鳥検査制度 .....	212
5) 流通と消費における衛生管理 .....	214
<b>第 14 章 食卵の衛生</b> .....	(岡村雅史) …215
1. 食卵の衛生管理の詳細 .....	215
1) 鶏卵の形成過程および構造と微生物汚染防止機構 .....	215
2) 食卵の品質と鮮度検査 .....	216
3) 異常卵 .....	217
4) 鶏卵の用途と規格 .....	217
5) 卵のフードチェーンと各段階における衛生管理 .....	218
6) 卵とサルモネラ食中毒 .....	221
<b>第 15 章 魚介類の衛生</b> .....	(山崎浩平) …222
1. 鮮度保持と鮮度判定 .....	222
1) 魚介類の生産から消費まで .....	222
2) 魚介類の鮮度保持方法 .....	222
3) 鮮度判定 .....	223
2. 魚介類による健康障害 .....	223
1) 魚介類の生食と食品衛生 .....	223
2) 寄生虫性食中毒 .....	223
3) 有毒魚類 .....	223
4) 貝 毒 .....	224
5) 腸炎ビブリオ .....	224
6) ヒスタミン中毒 .....	224
<b>第 16 章 野菜および果物の衛生</b> .....	(山田健太郎・高野貴士) …225
1. 野菜および果物の衛生管理の詳細 .....	225
<b>第 17 章 食品の機能性</b> .....	(平山和宏) …227
1. 食品の機能と機能性食品 .....	227

2. 機能性食品と保健機能食品制度	227
1) 機能性食品の分類	227
2) 保健機能食品制度	228
<b>人獣共通感染症学</b>	231
<b>第1章 人獣共通感染症学の概要</b>	233
1. 人獣共通感染症 (荻和宏明)	233
1) 人獣共通感染症の定義	233
2) 人獣共通感染症の伝播様式	233
3) 感染経路	234
2. 人獣共通感染症と人間の活動	234
1) 人と動物における人獣共通感染症の症状 (荻和宏明)	234
2) 食品媒介性感染症 (三宅眞実)	234
3) 職業と人獣共通感染症 (荻和宏明)	235
3. 人獣共通感染症の地理的分布と環境要因 (伊藤直人)	236
4. 新興・再興感染症 (伊藤直人)	236
1) 新興・再興感染症の発生要因	236
5. バイオリスクマネジメント (荻和宏明・中嶋建介)	238
1) バイオセーフティ	238
2) バイオセキュリティ	238
6. 人獣共通感染症制御の法的基盤 (伊藤直人)	241
1) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 (感染症法)	241
2) 検疫法	242
3) 狂犬病予防法	242
<b>第2章 各種動物から伝播する人獣共通感染症</b>	243
1. 伴侶動物由来の人獣共通感染症 (丸山総一)	243
2. 産業動物由来の人獣共通感染症 (丸山総一)	244
3. 野生動物由来の人獣共通感染症 (荻和宏明)	246
4. 節足動物由来の人獣共通感染症 (荻和宏明)	246
<b>第3章 ウイルスおよびプリオンによる人獣共通感染症</b>	248
1. RNA ウイルスによる人獣共通感染症	248
1) 狂犬病 Rabies (伊藤直人)	248
2) リッサウイルス感染症 Lyssavirus infection (伊藤直人)	250
3) フィロウイルス感染症 Filovirus infection (マールブルグ病 Marburg disease, エボラ出血熱 Ebola hemorrhagic fever) (高田礼人)	251
4) ヘニパウイルス感染症 Henipavirus infection (伊藤直人)	252
5) クリミア・コンゴ出血熱 Crimean-Cong hemorrhagic fever (荻和宏明)	254
6) ハンタウイルス感染症 Hantavirus infection (荻和宏明)	255
7) リフトバレー熱 Rift Valley fever (荻和宏明)	256
8) 重症熱性血小板減少症候群 Severe fever with thrombocytopenia syndrome (SFTS) (荻和宏明)	257
9) ラッサ熱 Lassa fever (荻和宏明)	258
10) リンパ球性脈絡髄膜炎 Lymphocytic choriomeningitis (LCM) (荻和宏明)	259
11) 南米出血熱 South American hemorrhagic fever (荻和宏明)	259
12) インフルエンザ Influenza (伊藤壽啓)	260
13) 黄熱 Yellow fever (小林進太郎)	262
14) 日本脳炎 Japanese encephalitis (小林進太郎)	263

15) ウエストナイル熱 West Nile fever	小林進太郎	264
16) ダニ媒介性脳炎 Tick-borne encephalitis	小林進太郎	265
17) デング熱 Dengue Fever	小林進太郎	265
18) ジカウイルス感染症 Zika virus infection	小林進太郎	266
19) チクングニア熱 Chikungunya fever	小林進太郎	267
20) 重症急性呼吸器症候群 Severe acute respiratory syndrome (SARS)	神谷 亘	267
21) 中東呼吸器症候群 Middle East respiratory syndrome (MERS)	神谷 亘	268
22) COVID-19 (Coronavirus disease 2019)	神谷 亘	268
23) E型肝炎 Hepatitis E	伊藤直人	269
24) ロタウイルス感染症 Rotavirus infection	伊藤直人	271
2. DNA ウイルスによる人獣共通感染症		271
1) Bウイルス感染症 B-virus infection	高野貴士	271
2) エムポックス Mpox (旧称:サル痘 Monkeypox)	伊藤直人	272
3) ヒトオーフ Human orf, 搾乳者結節 Milker's nodule, 偽牛痘 Pseudocowpox, 牛丘疹性口炎 Bovine papular stomatitis	猪島康雄	273
3. プリオンによる人獣共通感染症	堀内基広	274
1) プリオン病 Prion diseases		274
<b>第4章 リケッチアおよびクラミジアによる人獣共通感染症</b>		277
1. リケッチアによる人獣共通感染症		277
1) 発疹熱および発疹チフス Murine typhus and epidemic typhus	壁谷英則	277
2) 紅斑熱 Spotted fever	村松康和	278
3) ツツガムシ病 Scrub typhus/Tsutsugamushi disease	壁谷英則	280
4) エールリヒア症 Ehrlichiosis	猪熊 壽	281
5) アナプラズマ症 Anaplasmosis	猪熊 壽	281
2. クラミジアによる人獣共通感染症	福士秀人	282
1) オウム病 Psittacosis		282
<b>第5章 細菌による人獣共通感染症</b>		284
1. グラム陰性菌による人獣共通感染症		284
1) ペスト Plague	林谷秀樹	284
2) エルシニア症 Yersiniosis	林谷秀樹	286
3) 細菌性赤痢 Shigellosis	中馬猛久	286
4) 腸管出血性大腸菌症 Enterohemorrhagic <i>Escherichia coli</i> infection	三宅眞実	288
5) サルモネラ症 Salmonellosis	林谷秀樹	289
6) レプトスピラ症 Leptospirosis	高野 愛	290
7) カンピロバクター症 Campylobacteriosis	三澤尚明	292
8) ブルセラ症 Brucellosis	度会雅久	293
9) 鼻疽 Glanders	胡 東良	294
10) 類鼻疽 Melioidosis	胡 東良	294
11) 野兎病 Tularemia	丸山総一	295
12) パスツレラ症 Pasteurellosis	壁谷英則	297
13) Q熱 Q fever	村松康和	297
14) 鼠咬症 Rat-bite fever	高野 愛	299
15) ライム病 Lyme disease	度会雅久	300
16) 猫ひっかき病 Cat-scratch disease	丸山総一	301
17) カプノサイトファーガ感染症 Capnocytophaga infection	丸山総一	302
2. グラム陽性菌による人獣共通感染症		303



1) 炭疽 Anthrax	(奥谷晶子)	…303
2) リステリア症 Listeriosis	(落合由嗣)	…304
3) 破傷風 Tetanus	(奥谷晶子)	…305
4) ガス壊疽 Gas gangrene	(奥谷晶子)	…306
5) ボツリヌス症 Botulism	(三宅眞実)	…306
6) ブドウ球菌感染症 Staphylococcal infection	(胡 東良)	…307
7) ストレプトコッカス・スイス感染症 (豚レンサ球菌感染症) <i>Streptococcus suis</i> infection	(岡谷友三アレシャンドレ)	…308
8) 豚丹毒 Swine erysipelas, 類丹毒 Erysipeloid (人の豚丹毒菌症)	(岡谷友三アレシャンドレ)	…309
9) コリネバクテリウム・ウルセランス感染症 <i>Corynebacterium ulcerans</i> infection	(岩城正昭)	…310
3. 抗酸菌による人獣共通感染症	(森田幸雄)	…311
1) 結核 Tuberculosis		311
2) 非結核性抗酸菌症 (非定型抗酸菌症) Atypical mycobacteriosis		313
<b>第6章 真菌による人獣共通感染症</b>	(加納 壘)	…314
1. 真菌による主な人獣共通感染症		314
1) ヒストプラスマ症 Histoplasmosis		314
2) プラストミセス症 Blastomycosis		315
3) コクシジオイデス症 Coccidioidomycosis		315
4) カンジダ症 Candidiasis (皮膚および粘膜カンジダ症 Cutaneous candidiasis, Mucosal candidiasis)		316
5) アスペルギルス症 Aspergillosis		317
6) クリプトコックス症 Cryptococcosis		318
7) 皮膚糸状菌症 Dermatophytosis		319
<b>第7章 原虫による人獣共通感染症</b>		321
1. 原虫による主な人獣共通感染症		321
1) トキソプラズマ症 Toxoplasmosis	(正谷達膳)	…321
2) 赤痢アメーバ症 Amebic dysentery (Amebiasis)	(正谷達膳)	…323
3) アメリカトリパノソーマ症 (シャーガス病) American trypanosomiasis (Chagas' disease)	(菅沼啓輔)	…324
4) ヒトアフリカトリパノソーマ症 (睡眠病) Human African trypanosomiasis (sleeping sickness)	(菅沼啓輔)	…325
5) リーシュマニア症 Leishmaniasis	(麻田正仁)	…326
6) ジアルジア症 Giardiasis	(黒木俊郎)	…327
7) クリプトスポリジウム症 Cryptosporidiosis	(正谷達膳)	…328
8) バベシア症 Babesiosis	(麻田正仁)	…329
<b>第8章 寄生虫による人獣共通感染症</b>		331
1. 寄生虫による主な人獣共通感染症		331
1) トキソカラ症 Toxocariasis	(平 健介)	…331
2) 顎口虫症 Gnathostomiasis	(杉山 広)	…332
3) アニサキス症 Anisakiasis	(杉山 広)	…333
4) 犬糸状虫症 Dirofilariasis	(平 健介)	…334
5) アライグマ回虫症 Baylisascariasis	(浅川満彦)	…334
6) 旋毛虫症 (トリヒナ症) Trichinellosis	(浅川満彦)	…335
7) 肝吸虫症 Clonorchiasis	(森嶋康之)	…336
8) メタゴニムス症 Metagonimiasis	(森嶋康之)	…337
9) 広東住血線虫症 Angiostrongyliasis cantonensis	(森嶋康之)	…338
10) 日本住血吸虫症 Schistosomiasis	(杉山 広)	…339

11) 肺吸虫症 Paragonimiasis	(杉山 広)	339
12) 肝蛭症 Fascioliasis	(杉山 広)	341
13) 裂頭条虫症 Diphyllbothriasis	(松本 淳)	341
14) マンソン孤虫症 Sparganosis mansoni	(松本 淳)	342
15) 有鉤条虫症 (有鉤囊虫症) <i>Taenia solium</i> taeniasis ( <i>Taenia solium</i> cysticercosis)	(松本 淳)	343
16) 無鉤条虫症 <i>Taenia saginata</i> taeniasis	(松本 淳)	344
17) 多包虫症 (エキノコックス症) Alveolar echinococcosis (Alveolar hydatidosis)	(松本 淳)	344
18) 単包虫症 (エキノコックス症) Cystic echinococcosis (Cystic hydatidosis)	(松本 淳)	345
19) 外部寄生虫症	(森田達志)	346
<b>環境衛生学</b>		349
<b>第1章 環境衛生の概要</b>	(佐藤 至)	351
1. 環境衛生の概念と歴史		351
1) 環境の概念		351
2) 環境問題の概要		352
3) 環境問題に対する国際連携		353
2. 環境基本法と関連法規		354
1) 環境基本法と環境基準		354
2) 環境関連法規と環境行政		354
3. 環境衛生と獣医学		354
1) 獣医療と環境衛生との関わり		354
2) 畜産業と環境衛生との関わり		356
3) 環境衛生の指導および監視		356
<b>第2章 自然環境</b>		357
1. 自然環境の保護と保全	(鈴木正嗣)	357
2. 生物多様性	(鈴木正嗣)	360
1) 生物多様性の意義		360
2) 生物多様性の保全のための条約と法律		360
3) 絶滅危惧種とその保護		362
4) 野生動物の保護と管理		365
3. 環境アセスメント	(佐藤 至)	366
1) 目的と対象事業		366
2) 手 順		368
<b>第3章 生活環境 I (水)</b>		369
1. 水と健康	(落合由嗣)	369
1) 微生物的危害因子		369
2) 物理化学的危害因子		370
2. 水 道	(落合由嗣)	372
1) 水道の現状		372
2) 浄水処理の仕組み		373
3) 水道水の水質基準		375
4) プールと浴場の水質基準		377
3. 下 水 道	(上野俊治)	377
1) 下水道の現状		379
2) 下水処理の仕組み		381
3) 下水道の水質基準		386

4) 浄化槽	390
<b>第4章 生活環境Ⅱ(空気)</b>	(能田 淳) 391
1. 気 象	391
1) 気象に関する指標	391
2) 大気現象	393
2. 空 気	393
1) 大気の構造と成分	393
2) 欠乏症と中毒	393
3. 室内環境	394
1) 室内の空气中危害因子	394
2) 室内環境の基準	396
<b>第5章 生活環境Ⅲ(廃棄物)</b>	(上野俊治) 398
1. 廃棄物の処理	398
1) 廃棄物の定義と分類	398
2) 一般廃棄物の処理	404
3) 産業廃棄物の処理	406
2. 循環型社会	408
1) 廃棄物をめぐる問題	408
2) 循環型社会の推進	408
3. 廃棄物の国際移動	409
1) 有害廃棄物の輸出入規制	409
2) 廃棄物の輸出入	409
<b>第6章 地域環境(公害)</b>	410
1. 公害の歴史と対策	(杉田和俊) 410
1) 公害の歴史	410
2) 公害の対策	411
2. 公害各論	412
1) 大気の汚染	(能田 淳) 412
2) 水質の汚濁	(落合由嗣) 416
3) 土壌の汚染	(柏本孝茂) 425
4) 悪 臭	(柏本孝茂) 429
5) 騒音と振動	(柏本孝茂) 430
6) 地盤の沈下	(柏本孝茂) 431
7) ダイオキシン類	(杉田和俊) 432
<b>第7章 地球環境</b>	436
1. 地球温暖化	(佐藤 至) 436
1) 温暖化の原因と現状	436
2) 温暖化の影響	437
3) 温暖化対策	438
4) 温室効果ガスの排出削減	438
2. オゾン層の破壊	(能田 淳) 439
1) オゾンホールとその原因	439
2) オゾン層の保護対策	440
3. 酸性雨	(能田 淳) 441
1) 酸性雨の原因と影響	441
2) 酸性雨の現状と対策	441

4. 熱帯林の減少と砂漠化	(佐藤 至)	442
1) 熱帯林減少の原因と現状		442
2) 熱帯林等の保護策		442
3) 砂 漠 化		443
5. 海洋汚染	(佐藤 至)	443
1) 海洋汚染の原因と現状		443
2) 海洋汚染対策		444
<b>第8章 化学物質と放射性物質</b>		445
1. 化学物質汚染	(吉岡 亘)	445
1) 環境中の化学物質の毒性		445
2) 主な環境中有害化学物質		447
2. 化学物質の管理と規制	(吉岡 亘)	448
1) 化学物質管理の国際的取組み		448
2) 国内の化学物質管理制度		449
3. 放射性物質汚染	(佐藤 至)	451
1) 自然放射線		451
2) 放射線と放射性物質の利用		452
3) 放射性物質の規制と被曝限度		452
4) 環境の放射能汚染事故		453
5) 福島第一原子力発電所事故		454
<b>第9章 衛生動物</b>	(安藤匡子)	458
1. 衛生動物の詳細		458
1) 衛生動物の種類と危害		458
2) 衛生動物の防除		462
<b>参考図書</b>		464
<b>略 語 表</b>		465
<b>索 引</b>		469